

農業特定技能 2 号合格者及び雇用する経営者へのアンケート：集計にみる傾向と特徴

堀口健治（早稲田大学）・軍司聖詞（早稲田大学）・吉満一貴（東京農業大学）

1. はじめに

特定技能 2 号の試験が、農業（2 号農業技能測定試験）では 2023 年 12 月に始まり、直近では 24 年 11 月末、25 年 1 月末と、数か月ごと全国農業会議所により行われている。特定技能 2 号は、技能実習や特定技能 1 号と異なり、基本的に在留資格の更新が無制限で家族帶同が可能になる。また一定年数が経てば永住ビザの申請も可能になる。

不熟練労働力として日本に入国する技能実習生は、耕種ないし畜産に分かれ、雇用した農家・農業法人等で働きながら技能を学び、並行して日本語も学習する、OJT(on the job training) 下の労働者である。当初の研修生ではなく、今では雇用契約を結ぶ労働者に位置づけられている。技能を磨き仕事に慣れることを要請されるので、他の国のように特定の単純な仕事のみの繰り返しではなく、いくつもの種類の労働に就くことで技能をあげ、日本語レベルを上げることが要請されている。それをこなすことで、より専門的な労働者である特定技能 1 号の在留資格で雇用され、最長 3 年ないし 5 年の技能実習生に対し、最長 5 年の在留が認められる。そして、耕種ないし畜産別に確認されるが、農業の現場における管理者としての 2 年以上の実務経験又は農業の現場における 3 年以上の実務経験があれば、2 号の受験が可能となる。合格者はあまりないが、上記を満たせば技能実習からの受験も可能である。

下記の表は、アンケート結果ではなく、受験者・合格者の実際の総数を示している。耕種ないし畜産

全国地区別・試験時期別・農業特定技能 2 号試験の「合格者数/受験者数」（単位：人）

| | 耕種 | | | | | 畜産 | | | | |
|-------|-------|--------|--------|-------------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 第 1 回 | 第 2 回 | 第 3 回 | 第 4 回 | 第 5 回 | 第 1 回 | 第 2 回 | 第 3 回 | 第 4 回 | 第 5 回 |
| 全国 | 3／38 | 23／169 | 93／292 | 106／ 306 | 107／ 345 | 9／19 | 20／39 | 40／69 | 51／84 | 48／84 |
| 北海道 | 1／1 | 0／3 | 3／8 | 5／12 | 3／8 | 0／0 | 4／9 | 11／15 | 22／25 | 24／30 |
| 東北 | 0／0 | 0／0 | 0／5 | 3／7 | 4／7 | 3／6 | 4／5 | 3／6 | 4／6 | 0／3 |
| 関東 | 0／12 | 11／76 | 42／114 | 49／115 | 46／130 | 5／12 | 9／16 | 13／18 | 6／19 | 6／20 |
| 中部 | 0／7 | 3／22 | 17／44 | 12／46 | 14／52 | 1／1 | 0／1 | 4／9 | 5／7 | 6／9 |
| 近畿 | 0／4 | 2／13 | 4／19 | 5／23 | 9／29 | 0／0 | 0／0 | 3／7 | 4／8 | 4／5 |
| 中国 | 2／2 | 1／3 | 2／5 | 2／4 | 5／7 | 0／0 | 0／0 | 0／0 | 2／4 | 2／4 |
| 四国 | 0／3 | 2／14 | 8／20 | 6／24 | 7／32 | 0／0 | 3／6 | 1／6 | 3／6 | 1／6 |
| 九州・沖縄 | 0／9 | 4／38 | 16／72 | 23／75 | 23／81 | 0／0 | 0／2 | 5／8 | 5／9 | 4／7 |

出所：一般社団法人全国農業会議所の協力により集計。

注 1：各試験は、第 1 回（2023 年 12 月 20 日～22 日）、第 2 回（2024 年 2 月 19 日～21 日）、第 3 回（2024 年 5 月 27 日～30 日）、第 4 回（2024 年 7 月 22 日～25 日）、第 5 回（2024 年 9 月 24 日～27 日）で、受験者はそれぞれの中の 1 日で受験する。

注 2：地方区分の数字を合計すると、全国計とわずかに異なるケースがある。これは府県が未掲載等の事情によるものである。

注 3：不合格者はその後も受験できるので、受験者数は延べ人数である。

別に全国ないし地区別・試験時期ごとに示した。耕種は5回分の合計受験者が1,150人、合格者332人、畜産は受験者295人、合格者168人である。合格率は5回平均で耕種29%、畜産57%であり、耕種は畜産と比べ合格率が低い。当初はさらに低く5回目で3割を超えるようになった。試験問題の傾向に慣れ、自分が従事する種類以外の多種の農業も学ぶ必要が認識されるようになり、合格率が上がってきたと思われる。畜産は当初からほぼ半分の合格率が続いているが、従事する畜産種類は異なるものの、子どもを取り育成肥育して成長させる経過は同じなので、他の種類も理解し記憶しやすいのであろう。この差をどう考えるか、検討すべき課題である。

また、地区別にみると、北海道の受験者が少ないと気が付く。受験者の多くは圧倒的に特定技能1号が多いが、24年6月末の農業の特定技能1号（出入国在留管理庁）を見ると全国で27,786人、うち北海道が3,353人と、茨城県3,879人に次いで多い。茨城県は関東に含まれるが、関東の中で茨城は受験者、合格者、最多とみられる。これに対し北海道は畜産に特定技能1号が多いが、畜産でも受験者は少ない。技能実習と特定技能1号を終えて、2号の試験を受けずに帰国する人が多いのであろう。関東や九州一沖縄では2号を目指す人がかなりいる、との違いである。このことをどう考えるか、同じく検討すべき課題である。

いずれにしろ、技能実習そして特定技能1号の経験を踏まえ、それをもとに2号の試験をパスした若者は技能、日本語、それぞれ実践的に高い水準にあることが証明されたので、農業経営内での幹部の役割を果たすであろうし、労働市場では農業経営に大きく貢献する人材と評価されることになろう。

日本に不熟練労働力として入国後、経験を踏まえ、また自らスキルアップすることで、特定技能2号に到達するのは、日本の外国人労働力受入れのひとつの「完成形」と言えるであろう。途中で帰国し、自國で仕事をするほうが人数としてははるかに多いであろうが、日本に長くいることを希望する人にとってはこの2号の仕組みは、努力すれば選択・パスできる望ましい道であることが示された。

なお2号試験の直後の状況は、堀口・軍司「外国人特定技能2号合格の意義と特徴」（『農中総研情報』2024.5）に述べてあるので参照してほしい。合格者、雇用者の様子なども紹介している。

アンケートは私どもが作成し、全国農業会議所から合格者、彼らを雇用した経営者、5回分のすべての方に、メールで送っていただいた。メール返信により（ファックスも受け入れた）10月末を締め切りにしていたが、その後もファックスを含め回答が来ているので、12月初めまで集計に入れた。合格者500人のうち181人の回答（回答率36%）、雇用している経営者（複数の合格者を持つ経営者がいるので500人を少し下回る数の経営者に送付）は57人からなので、回答率に差がある。また経営者は回答していない項目が結構多く、集計してその人数にならないことが多い。本稿は回答のあるものを項目ごとに集計して分析を加えている。なお回答アンケートは漢字混じりの文章に加え、ふりがな文も付けており、そのまま残して外国人が読みやすいようにしている。

2. 2号合格者へのアンケート：集計にみる傾向と特徴

表1■合格したのは次のどれですか／ごうかくしたのはつぎのどれですか

| 実施時期 | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|---------|------|------|----|
| 1回目 12月 | 14 | 12 | 26 |
| 2回目 2月 | 24 | 10 | 34 |
| 3回目 5月 | 54 | 26 | 80 |

| | | | |
|-------|-----|----|-----|
| 4回目7月 | 14 | 6 | 20 |
| 5回目9月 | 20 | 1 | 21 |
| 合計 | 126 | 55 | 181 |

合格者は500人だったが、回答してくれたのは181人、そのうち3回目が最大で、1, 2回目の様子を見たうえで、準備をそれなりにしてきた熱心な合格者が多いのであろう。アンケートにも積極的である。

表2■勤め先の場所を教えてください／つとめさきのばしょをおしえてください

| | 耕種 | | | 畜産 | | | 耕種+畜産 | | |
|-------|----|----|-----|----|----|----|-------|----|-----|
| | 男性 | 女性 | 合計 | 男性 | 女性 | 合計 | 男性 | 女性 | 合計 |
| 北海道 | 6 | 5 | 11 | 3 | 11 | 14 | 9 | 16 | 25 |
| 東北 | 0 | 1 | 1 | 4 | 1 | 5 | 4 | 2 | 6 |
| 関東甲信 | 28 | 15 | 43 | 13 | 3 | 16 | 41 | 18 | 59 |
| 北陸 | 0 | 2 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | 2 | 4 |
| 東海 | 9 | 3 | 12 | 3 | 2 | 5 | 12 | 5 | 17 |
| 近畿 | 5 | 3 | 8 | 3 | 2 | 5 | 8 | 5 | 13 |
| 中国 | 1 | 10 | 11 | 0 | 2 | 2 | 1 | 12 | 13 |
| 四国 | 1 | 10 | 11 | 2 | 0 | 2 | 3 | 10 | 13 |
| 九州・沖縄 | 12 | 15 | 27 | 2 | 2 | 4 | 14 | 17 | 31 |
| 合計 | 62 | 64 | 126 | 32 | 23 | 55 | 94 | 87 | 181 |

181人の回答者は、関東甲信が多いが、他地域と異なり男性の回答が多く、女性は少ない。だが他地域は女性の回答が結構多いが、母数の割合以上に女性は受験し合格しているのかもしれない。というのは、農業特定技能1号は24年6月末で27,786人だが、男性16,245人、女性11,541人なので、女性の割合は男性に比べ低いが、試験の応募者そして合格者の女性の割合は結構高いとみられる。

表3■出身の国を教えてください／しゅっしんのくにをおしえてください

| | 耕種 | | | 畜産 | | | 耕種+畜産 | | |
|--------|----|----|----|----|----|----|-------|----|-----|
| | 男性 | 女性 | 合計 | 男性 | 女性 | 合計 | 男性 | 女性 | 合計 |
| ベトナム | 32 | 55 | 87 | 18 | 19 | 37 | 50 | 74 | 124 |
| 中国 | 13 | 4 | 17 | 0 | 2 | 2 | 13 | 6 | 19 |
| インドネシア | 11 | 1 | 12 | 8 | 0 | 8 | 19 | 1 | 20 |
| カンボジア | 3 | 0 | 3 | 0 | 1 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| フィリピン | 1 | 3 | 4 | 3 | 0 | 3 | 4 | 3 | 7 |
| タイ | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 3 |
| ネパール | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| スリランカ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 台湾 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |

| | | | | | | | | | | |
|---------|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----|---|
| インド | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| モンゴル | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| ミャンマー | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| バングラデシ | | | | | | | | | | |
| ユ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ラオス | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ウズベキスタン | | | | | | | | | | |
| ン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ペルー | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 62 | 64 | 126 | 32 | 23 | 55 | 94 | 87 | 181 | |

回答者はベトナムをトップに、中国、インドネシアの順で数が多いが、ベトナムは女性の回答が多いのが特徴的である。

表4■性別を教えてください／せいべつをおしえてください

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|--------|------|------|-----|
| 男性／おとこ | 62 | 32 | 94 |
| 女性／おんな | 64 | 23 | 87 |
| 合計 | 126 | 55 | 181 |

表2と同様である。

表5■学歴を教えてください

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|--------|------|------|-----|
| 小学校卒業 | 0 | 0 | 0 |
| 中学校卒業 | 8 | 3 | 11 |
| 高校卒業 | 87 | 39 | 126 |
| 高校中退 | 2 | 4 | 6 |
| 大学卒業 | 20 | 8 | 28 |
| 大学中退 | 2 | 0 | 2 |
| 大学院修了 | 1 | 0 | 1 |
| 専門学校卒業 | 1 | 1 | 2 |
| 短期大学卒業 | 4 | 0 | 4 |
| 短期大学中退 | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 126 | 55 | 181 |

最終学歴を聞いているが、高卒が最多で、2番目は大卒である。技能実習を経由した人が合格者には多いので、技能実習にも大卒者がかなりいることが分かる。

表6■勤め先の主たる農業を教えてください

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|-----------------------------------|------|------|-----|
| 稻作／いなさく | 7 | 0 | 7 |
| 麦類作／むぎるいさく | 2 | 0 | 2 |
| 雑穀・イモ類・豆類／ざっこく・いもる い・まめるい | 14 | 0 | 14 |
| 工芸作物（お茶を含む）／こうげいさく もつ（おちゃをふくむ） | 4 | 0 | 4 |
| 露地野菜／ろじやさい | 42 | 0 | 42 |
| 施設野菜／しせつやさい | 58 | 0 | 58 |
| 果樹作／かじゅさく | 6 | 0 | 6 |
| 花卉・花木／はな | 10 | 0 | 10 |
| その他の作物／そのたのさくもつ | 16 | 0 | 16 |
| 酪農／らくのう | 1 | 14 | 15 |
| 肉用牛／にくようぎゅう | 0 | 4 | 4 |
| 養豚／ようとん | 2 | 12 | 14 |
| 養鶏／ようけい | 1 | 25 | 26 |
| 養蚕／ようさん | 1 | 0 | 1 |
| その他の畜産／そのたのちくさん | 2 | 1 | 3 |
| 合計 | 166 | 56 | 222 |

「勤め先の主たる農業」は何か、と聞いているので、自分の労働時間等を主に農業種類を判断するものから、経営の概要を見て判断するもの等、いろいろと思われ、結果として勤め先は一つだが、経営は主たる農業がいくつかあるとして、複数回答した人も結構いる。

耕種では施設野菜、露地野菜が多いが、いずれも回答者は耕種の人である。畜産は養鶏が最大で酪農、養豚が続くが、回答者は耕種の人が 7 人、畜産が 56 人の計 63 人である。表 2, 4 では畜産は 55 人となっている。自分は耕種農業従事だが、勤め先の主たる作物は複数あるとするもの、あるいは畜産を主にしているという回答が含まれるようである。

表7■勤め先はどれですか／つとめさきはどれですか

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|---------------|------|------|-----|
| 個人経営／こじんけいえい | 56 | 15 | 71 |
| 法人経営／ほうじんけいえい | 70 | 40 | 110 |
| 合計 | 126 | 55 | 181 |

合格者の雇われ先は全体で法人経営が多いが、耕種では個人経営がそれなりの数を占めている。

表 8 ■ 雇用形態はどれですか／こようけいたいはどれですか

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|---------------|------|------|-----|
| 直接雇用／ちょくせつこよう | 109 | 50 | 159 |
| 派遣形態／はけんけいたい | 17 | 5 | 22 |
| 合計 | 126 | 55 | 181 |

派遣会社に雇用されているものも 2 号試験を受けて合格しており、派遣がそれなりに多くなってきていくことがわかる。

表 9 ■ あなたが最初に日本に来た年を教えてください（単位：年）／あなたがさいしょににほんにきたとしをおしえてください（たんい：ねん）

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|------|------|------|-----|
| 2007 | 1 | 2 | 3 |
| 2008 | 0 | 0 | 0 |
| 2009 | 0 | 0 | 0 |
| 2010 | 0 | 0 | 0 |
| 2011 | 1 | 1 | 2 |
| 2012 | 0 | 0 | 0 |
| 2013 | 4 | 3 | 7 |
| 2014 | 11 | 2 | 13 |
| 2015 | 18 | 7 | 25 |
| 2016 | 23 | 8 | 31 |
| 2017 | 26 | 15 | 41 |
| 2018 | 20 | 8 | 28 |
| 2019 | 11 | 7 | 18 |
| 2020 | 6 | 2 | 8 |
| 2021 | 0 | 0 | 0 |
| 2022 | 3 | 0 | 3 |
| 2023 | 2 | 0 | 2 |
| 合計 | 126 | 55 | 181 |

日本に最初に来た年は、多いのが 16, 17 年、またその前後が多い。技能実習（3 年ないし 5 年）と特定技能 1 号（5 年）の合計内で、今回試験に合格している人は、8 ないし 7 年目の在日とみられる。特定技能 1 号（19 年から制度開始）で帰国せねばならない 5 年目で、受験している人が多いとみられる。そういう人は不合格であればビザが切れれば帰国せざるを得ないが、その後の再受験は可能である。

なお 22 年、23 年来日という答えは受験資格に不足するが、おそらくは再来日を指していると思われる。

表 10 ■ その時の在留資格はどれですか／そのときのざいりゅうしかくはどれですか

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|-----------------------------------|------|------|-----|
| 技能実習生／ぎのうじっしゅうせい | 102 | 45 | 147 |
| 特定技能 1 号／とくていぎのういちごう | 23 | 9 | 32 |
| 留学生／りゅうがくせい | 1 | 1 | 2 |
| 技術・人文知識・国際業務／ぎじゅつじんぶんちしき・こくさいぎょうむ | 0 | 0 | 0 |
| インターンシップ | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 126 | 55 | 181 |

合格者の来日時の在留資格で多いのは、圧倒的に技能実習である。次に多いのが特定技能 1 号であり、これが今後増えるのか、注目される。

表 11 ■ 特定技能 2 号に合格した時の在留資格はどれですか／とくていぎのう 2 ゴうにごうかくしたときのざいりゅうしかくはどれですか

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|-----------------------------------|------|------|-----|
| 技能実習生／ぎのうじっしゅうせい | 0 | 1 | 1 |
| 特定技能 1 号／とくていぎのういちごう | 126 | 53 | 179 |
| 留学生／りゅうがくせい | 0 | 0 | 0 |
| 技術・人文知識・国際業務／ぎじゅつじんぶんちしき・こくさいぎょうむ | 0 | 0 | 0 |
| インターンシップ | 0 | 1 | 1 |
| 合計 | 126 | 55 | 181 |

合格時の在留資格はほとんどすべてが特定技能 1 号である。制度的に可能だとしても、技能実習で合格しているのは 1 人のみであり、かなり難しいことがわかる。

表 12 ■ 年齢

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|---------|------|------|----|
| 19 歳以内 | 0 | 0 | 0 |
| 20~24 歳 | 1 | 2 | 3 |
| 25~29 歳 | 42 | 19 | 61 |
| 30~34 歳 | 52 | 16 | 68 |
| 35~39 歳 | 26 | 16 | 42 |

| | | | |
|---------|-----|----|-----|
| 40～44 歳 | 3 | 2 | 5 |
| 45～49 歳 | 2 | 0 | 2 |
| 合計 | 126 | 55 | 181 |

現在の年齢を聞いているが、25～29 歳、30～34 歳、35～39 歳のところにほぼ属している。

表 13 ■受験した時の勤め先には何年間勤めていますか（一時的な帰国を含みます） 単位：年

| 年数 | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|----|------|------|-----|
| 0 | 2 | 0 | 2 |
| 1 | 4 | 5 | 9 |
| 2 | 10 | 3 | 13 |
| 3 | 13 | 4 | 17 |
| 4 | 21 | 7 | 28 |
| 5 | 18 | 3 | 21 |
| 6 | 13 | 12 | 25 |
| 7 | 27 | 12 | 39 |
| 8 | 14 | 7 | 21 |
| 9 | 3 | 2 | 5 |
| 10 | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 124 | 55 | 181 |

受験したときの勤務先年数は、7 年目の 39 人が最多である。技能実習 3 年と特定技能 1 号を合わせると、特定技能の 4 年目ないし 5 年目で今回の試験を受けていることが分かる。同じ企業で継続して働き、例えば 7 年目で合格しているのであり、技能のスキルアップや日本語等、この 7 年の経験で合格しているとみることができる。逆に言えば、短期間に転籍する人は、スキルアップに効果がなかなか出にくいのであろう。なお、帰国すべき年次が近づいてきて受験する人が多いようだが、4, 5, 6 年目で受験し合格している人もいるので、特定技能 1 号の途中でも多くの人が受験していることもわかる。

表 14 ■受験した時のあなたの日本語能力はどれですか／じゅけんしたときのあなたのほんごのうりょくはどれですか

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|-----------------------|------|------|----|
| N4 | 11 | 1 | 12 |
| N3 | 39 | 19 | 58 |
| N2 | 24 | 13 | 37 |
| N1 | 4 | 1 | 5 |
| (取得していないが) N4 相当と思われる | 15 | 10 | 25 |

| | | | |
|-----------------------|-----|----|-----|
| (取得していないが) N3 相当と思われる | 21 | 8 | 29 |
| (取得していないが) N2 相当と思われる | 10 | 3 | 13 |
| (取得していないが) N1 相当と思われる | 2 | 0 | 2 |
| 合計 | 126 | 55 | 181 |

受験時の自己の日本語のレベルを聞いているが、受験して N3 をとっているかそれに相当すると認識しているものが、多い。なお受験して N2 をとっているものが 37 名もいる。他方で自分は N4 相当と認識しているものも多いようだ。日本語のレベルが高いことが合格に強く関わっているとみられるが、しかし教科書等をしつかり学習し合格しているが、自分のコミュニケーション力は不十分だ（N4 ないし相当）と認識しているものも結構いるようである。

表 15■今回の受験はどれですか（複数回答可能）／こんかいのじゅけんはどれですか（ふくすうかいとうかのう）

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|-----------------------------|------|------|-----|
| 自分で決めた／じぶんできめた | 110 | 46 | 156 |
| 経営者に勧められた／けいえいしゃにすすめられた | 28 | 13 | 41 |
| 監理団体から勧められた／かんりだんたいからすすめられた | 10 | 1 | 11 |
| 先輩から勧められた／せんぱいからすすめられた | 0 | 1 | 1 |
| 未回答 | 1 | 1 | 2 |
| 合計 | 149 | 62 | 211 |

複数回答を認めているが、最多は「自分で受験を決めた」のであり、経営者に勧められたものもいるが、これは自分で決めたときに経営者からも勧められたものが多いのであろう。自分の意志で決めていることが印象的である。

表 16■合格後は何をしますか、予定を含め教えてください／ごうかくごはなにをしますか、よていをふくめておしえてください

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|--------------------|------|------|-----|
| いずれ永住ビザを申請し別の仕事に移る | 17 | 5 | 22 |
| 永住ビザを取っても今の勤め先で働く | 66 | 36 | 102 |
| 一定の期間が来れば帰国する | 10 | 4 | 14 |
| 条件のよい勤め先があれば移りたい | 18 | 4 | 22 |

| | | | |
|---------|-----|----|-----|
| 家族を呼ぶ | 56 | 25 | 81 |
| 日本国籍目指す | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 168 | 74 | 242 |

今後の予定を、複数回答で聞いた。最多は、永住ビザをとっても今の勤務先と答えているので、「終身雇用」を期待しているようだ。他方、家族呼び寄せをしたいと希望する人も多い。結婚済みの人が多いであろうが、今後、結婚して呼び寄せたいとする人も含まれている。

表 17■合格後に期待していることを教えてください／ごうかくごにきたいしていることをおしえてください

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|------------|------|------|-----|
| 住居の変化 | 23 | 12 | 35 |
| 賃金の引き上げ | 102 | 44 | 146 |
| 新しい管理職のポスト | 39 | 18 | 57 |
| 合計 | 164 | 74 | 238 |

その上で、賃金の引き上げが一番多い。ついで管理職として新しいポストを想定している。技能実習や特定技能1号の人とは住居が別になることも期待しているが、その数はそれほどでもない。

3. 2号合格者を雇用する経営者へのアンケート：集計にみる傾向と特徴

表 I ■雇用した外国人（派遣も含む）はいつ頃の受験で何名合格したか

| 実施時期 | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|---------|------|------|----|
| 1回目 12月 | 16 | 10 | 26 |
| 2回目 2月 | 8 | 8 | 16 |
| 3回目 5月 | 17 | 10 | 27 |
| 4回目 7月 | 5 | 3 | 8 |
| 5回目 9月 | 15 | 2 | 17 |
| 合計 | 61 | 33 | 94 |

経営者の回答は57人だが、異なる時期に合格者を複数持っている経営者もいるので、合格者数は多い。回答した経営者で合格者数を除すと、1.3人になる。これは回答者の6割が複数の合格者を持つことを意味する。

表 II ■あなたの経営の主たる農業を選択してください。

| 項目 | 件数 |
|-----------|----|
| 施設野菜 | 15 |
| 露地野菜 | 15 |
| 雑穀・イモ類・豆類 | 2 |

| | |
|--------|----|
| その他の作物 | 2 |
| 花卉・花木 | 2 |
| 果樹作 | 1 |
| 工芸作物 | 1 |
| 養鶏 | 10 |
| 養豚 | 3 |
| 酪農 | 5 |
| 肉用牛 | 1 |
| 合計 | 57 |

耕種では施設野菜と露地野菜が、畜産は養鶏が、回答してくれた多くの経営者の農業である。

表III ■勤め先の場所を教えてください

| | 耕種農業 | 畜産農業 | 合計 |
|-------|------|------|----|
| 北海道 | 1 | 3 | 4 |
| 東北 | 0 | 2 | 2 |
| 関東甲信 | 14 | 3 | 17 |
| 北陸 | 0 | 0 | 0 |
| 東海 | 3 | 1 | 4 |
| 近畿 | 2 | 2 | 4 |
| 中国 | 2 | 1 | 3 |
| 四国 | 6 | 0 | 6 |
| 九州・沖縄 | 8 | 2 | 10 |
| 未回答 | 2 | 5 | 7 |
| 合計 | 38 | 19 | 57 |

耕種は関東甲信に回答者が多く、九州・沖縄も結構ある。畜産はばらついていている。

表IV ■あなたの経営形態を教えてください

| 項目 | 耕種農業 | 畜産農業 | 件数 |
|--------|------|------|----|
| 株式会社 | 18 | 15 | 33 |
| 個人経営体 | 11 | 0 | 11 |
| その他の法人 | 7 | 3 | 10 |
| 農事組合法人 | 1 | 1 | 2 |
| 農協 | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 38 | 19 | 57 |

株式会社が最多である。なお耕種には個人経営体も結構ある。畜産は株式会社が多く個人経営体からは回答がないようである。

表V ■ 農地の経営規模を教えてください（単位：ha）

| | 事業者数 |
|-------|------|
| 0～10 | 22 |
| 11～20 | 10 |
| 21～30 | 1 |
| 31～40 | 0 |
| 41～50 | 0 |
| 51～ | 7 |
| 合計 | 40 |

集計の段階で階層規模を大きな単位でまとめたので、多くが 10ha 以下に属するが、それでもさらに大きな経営体もいる。なお回答がない経営体も結構ある。畜産が主なのかもしれない。

表VI ■ 【酪農】飼養頭数（単位：頭）

| | 事業者数 |
|---------|------|
| 0～100 | 3 |
| 101～200 | 0 |
| 201～300 | 1 |
| 301～400 | 0 |
| 401～599 | 1 |
| 501～ | 4 |
| 合計 | 9 |

ばらついているが、規模の大きい経営体が多い。合格者を持つ経営は大規模が多いようにみえる。

表VII ■ 【肉牛】飼養頭数（単位：頭）

| | 事業者数 |
|---------|------|
| 0～100 | 3 |
| 101～200 | 0 |
| 201～300 | 0 |
| 301～400 | 0 |
| 401～599 | 0 |
| 501～ | 1 |
| 合計 | 4 |

回答数が少ないが、100頭以下層が多い。

表VIII ■ 【養豚】飼養頭数（単位：頭）

| | 事業者数 |
|---------|------|
| 0～100 | 4 |
| 101～200 | 0 |
| 201～300 | 0 |
| 301～400 | 1 |
| 401～599 | 0 |
| 501～ | 2 |
| 合計 | 7 |

養豚は、階層が分散しているようにみえる。

表IX ■ 【養鶏】飼養羽数（単位：羽）

| | 事業者数 |
|---------------|------|
| 0～10,000 | 3 |
| 10,001～20,000 | 0 |
| 20,001～30,000 | 1 |
| 30,001～40,000 | 1 |
| 40,001～49,999 | 1 |
| 50,001～ | 0 |
| 合計 | 6 |

養鶏も階層が分散している。

表X ■ 年間売上高を教えてください（単位：100万円）

| | 事業者数 |
|--------------|------|
| 0～100 | 13 |
| 101～500 | 14 |
| 501～1,000 | 8 |
| 1,001～3,000 | 9 |
| 3,001～5,000 | 3 |
| 5,001～10,000 | 1 |
| 10,001～ | 9 |
| 合計 | 57 |

年間売上高は、5億円以下に27経営体があるが、畜産があるので金額は大きくなる。もっとも最大額が

100 億円以上の 9 経営は多いかもしない。単位を 100 万円ではなく万円単位に見誤った人もいるようで、確実とみられるもので修正したつもりだが、まだ十分ではないかもしない。

表XI■いつから外国人（研修生を含む）を雇用されましたか。（西暦「数字を入力ください」年から）

| 年数 | 耕種農業 | 畜産農業 | 件数 |
|------|------|------|----|
| 2000 | 4 | 2 | 6 |
| 2001 | 0 | 0 | 0 |
| 2002 | 1 | 0 | 1 |
| 2003 | 0 | 0 | 0 |
| 2004 | 3 | 1 | 4 |
| 2005 | 0 | 0 | 0 |
| 2006 | 0 | 1 | 1 |
| 2007 | 0 | 0 | 0 |
| 2008 | 1 | 0 | 1 |
| 2009 | 1 | 0 | 1 |
| 2010 | 1 | 2 | 3 |
| 2011 | 0 | 0 | 0 |
| 2012 | 0 | 1 | 1 |
| 2013 | 0 | 1 | 1 |
| 2014 | 5 | 1 | 6 |
| 2015 | 0 | 1 | 1 |
| 2016 | 3 | 0 | 3 |
| 2017 | 1 | 1 | 2 |
| 2018 | 4 | 1 | 5 |
| 2019 | 4 | 0 | 4 |
| 2020 | 3 | 0 | 3 |
| 2021 | 4 | 0 | 4 |
| 2022 | 2 | 1 | 3 |
| 2023 | 0 | 0 | 0 |
| 2024 | 0 | 1 | 1 |
| 未回答 | 1 | 5 | 6 |
| 合計 | 38 | 19 | 57 |

分散していて、2000 年、2004 年導入があるものの、多くが 2010 年代半ば以降のようである。2019 年の特定技能 1 号の導入も効いているようだ。またコロナ禍でも外国人を受け入れ始めたところが結構あることがわかる。

表XII■雇用している職種別、ビザ別の受入規模

アンケートは各経営における労働者数をそれぞれ聞いているが、総労働雇い入れ人数で各経営を一定の規模階層にまとめ、その階層ごとの平均値を掲載している。なお労働時間の大小を考えず、パート、アルバイトでも一人と数えている。

表A

| 経営体における総労働雇入れ規模 | 経営体数(件) | うち雇入れ人数の平均(人) | | | | | | | |
|-----------------|---------|---------------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 正規職員 | | その他の常雇 | | パート雇用 | | アルバイト | |
| | | 全体 | うち外国人 | 全体 | うち外国人 | 全体 | うち外国人 | 全体 | うち外国人 |
| 1~5人 | 7 | 2.0 | 0.9 | 0.7 | 0.7 | 1.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 6~10人 | 8 | 4.8 | 2.4 | 1.5 | 1.4 | 2.0 | 0.1 | 0.4 | 0.0 |
| 11~15人 | 11 | 4.8 | 2.1 | 4.5 | 2.9 | 2.9 | 0.0 | 0.5 | 0.0 |
| 16~20人 | 8 | 11.8 | 4.8 | 4.5 | 3.9 | 1.5 | 0.5 | 0.3 | 0.0 |
| 21~25人 | 2 | 3.0 | 0.0 | 19.5 | 11.5 | 0.5 | 0.0 | 1.0 | 0.0 |
| 26人以上 | 20 | 42.5 | 8.7 | 26.7 | 8.3 | 17.3 | 2.5 | 6.5 | 1.3 |
| 合計 | 56 | 18.5 | 4.5 | 11.8 | 4.7 | 7.3 | 1.0 | 2.5 | 0.5 |

みられるように外国人はパート、アルバイトには多くはなく、正規職員、その他の常雇、に多い。比率としては、その他の常雇に外国人が多く、正規職員は日本人が多いようである。なお経営の中に占める日本人はかなりその割合が高いことも指摘しておきたい。

表B

| 経営体における外国人雇入れ規模 | 経営体数(件) | うち雇入れ人数の平均(人) | | | | | | | | | |
|-----------------|---------|---------------|------|--------|------|--------|------|------|------|-----|------|
| | | 技能実習生 | | 特定技能1号 | | 特定技能2号 | | 特定活動 | | その他 | |
| | | 全体 | うち女性 | 全体 | うち女性 | 全体 | うち女性 | 全体 | うち女性 | 全体 | うち女性 |
| 1~5人 | 19 | 1.0 | 0.5 | 1.7 | 0.7 | 0.7 | 0.4 | 0.2 | 0.1 | 0.0 | 0.0 |
| 6~10人 | 16 | 2.4 | 1.5 | 5.0 | 0.4 | 0.4 | 0.1 | 0.2 | 0.1 | 0.0 | 0.0 |
| 11~15人 | 7 | 7.0 | 5.4 | 4.3 | 1.4 | 1.4 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 16~20人 | 4 | 5.8 | 1.0 | 8.0 | 0.5 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.3 | 1.3 |
| 21~25人 | 1 | 11.0 | 1.0 | 11.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 26人以上 | 10 | 25.4 | 9.4 | 32.1 | 0.7 | 0.7 | 0.4 | 2.1 | 1.4 | 1.3 | 0.0 |
| 合計 | 57 | 6.9 | 3.0 | 8.9 | 0.7 | 0.7 | 0.3 | 0.5 | 0.3 | 0.5 | 0.1 |

表Bは、外国人を在留資格別に分け、さらにそれに占める女性の人数も載せた。なお技能実習では女性の割合が高い。特定技能1号は全体として数が技能実習を上回るが、女性はその割合が低い。なお特定技能2号はどの経営も一人以上はいるのだが、表では0人とか、1を下回る数字が出ている。これは経営内的人数構成をアンケートに書き入れるときに、まだ特定技能2号が出ていない時点の職種別人

数を答えているのであろう。なお2号は書き入れてある限りではほぼ半分弱が女性のようである。なお、その他は、技術・人文知識・国際の「技人国」がそれにあたるであろう。多くはない。

表XIII■特定技能2号の受験を勧めた動機は何ですか。(複数選択可能)

| 項目 | 耕種農業 | 畜産農業 | 件数 |
|----------------|------|------|----|
| 本人が自分で決めた | 35 | 17 | 52 |
| 継続勤務を期待した | 19 | 9 | 28 |
| 幹部・役職になつてもらうため | 5 | 6 | 11 |
| 本人の能力を示すため | 3 | 2 | 5 |
| 合計 | 62 | 34 | 96 |

まずは本人が決めたとする経営者が多いが、継続勤務や幹部就任を期待している人も結構いる。

表XIV■合格後は処遇が変わりますか。(複数選択可能)

| 項目 | 耕種農業 | 畜産農業 | 件数 |
|------------|------|------|----|
| 賃金や手当が増える | 22 | 16 | 38 |
| 幹部・役職者になる | 10 | 4 | 14 |
| 住居を変える | 1 | 0 | 1 |
| 基本的には変わらない | 13 | 4 | 17 |
| 合計 | 46 | 24 | 70 |

賃金や手当を増やすとするものが多い。しかし幹部採用等はそう多くはない。他方で、基本的に変わらないとする経営者も結構いる。

表XV■これからも、雇っている人に、特定技能2号の受験を勧めますか。(複数選択可能)

| 項目 | 耕種農業 | 畜産農業 | 件数 |
|-----------------------------------|------|------|----|
| 勧めたい人がいる | 26 | 10 | 36 |
| 本人が希望すれば継続雇用を検討する | 1 | 3 | 4 |
| 受験資格に達している人がいない | 3 | 1 | 4 |
| 管理者としての資質や熟練業務を身に付けている方がいた場合、勧める。 | 0 | 1 | 1 |
| わからない | 1 | 0 | 1 |
| 候補者はいない | 7 | 4 | 11 |
| 合計 | 38 | 19 | 57 |

勧めたいとする経営者が多いが、候補者がいないとする経営者もある。

表XVI■「勧めたい人」がいると答えた方は、何人に勧めたいですか。

| 人数 | 耕種農業 | 畜産農業 | 件数 |
|------|------|------|----|
| 1 | 6 | 6 | 12 |
| 2 | 10 | 2 | 12 |
| 3 | 2 | 1 | 3 |
| 4 | 1 | 0 | 1 |
| 5 | 1 | 1 | 2 |
| 6 以上 | 4 | 0 | 4 |
| 未回答 | 2 | 0 | 2 |
| 合計 | 26 | 10 | 36 |

1人、2人の勧めたい人がいるとする経営者は結構多い。

表XVII■合格者はどういう予定や希望をもっていますか（複数選択可能）

| 項目 | 耕種農業 | 畜産農業 | 件数 |
|------------------|------|------|----|
| いずれ永住ビザの申請を考えている | 19 | 13 | 32 |
| 家族を呼び寄せたい | 20 | 10 | 30 |
| 経営の幹部を期待している | 8 | 2 | 10 |
| 日本でずっと働きたい | 2 | 2 | 4 |
| 他の経営に移ることを考えている | 1 | 0 | 1 |
| わからない | 1 | 1 | 2 |
| 合計 | 51 | 28 | 79 |

合格者の希望を経営者の側で推測したものだが、永住ビザの申請、家族の呼び寄せ、をあげた経営者が多い。

表 XVIII■合格者が出したことについての経営者側の準備はありますか（複数選択可能）

| 項目 | 耕種農業 | 畜産農業 | 件数 |
|-----------------------|------|------|----|
| 幹部・役職等を考える | 18 | 8 | 26 |
| 呼び寄せ家族の定着の応援（特に日本語教育） | 13 | 8 | 21 |
| 住居を別に用意する | 11 | 6 | 17 |
| その他 | 4 | 2 | 6 |
| 検討中 | 5 | 6 | 11 |
| 合計 | 51 | 30 | 81 |

幹部等の採用を考え、呼び寄せ家族への支援、住居を別に用意するなど、合格者の期待と一致するところが多い。

表 XIX ■ 合格者が出了ことでどのような影響があると考えますか（複数選択可能）

| 項目 | 耕種農業 | 畜産農業 | 件数 |
|--------------------|------|------|----|
| 今の外国人の定着がよくなる | 33 | 16 | 49 |
| 日本人に影響が出る | 6 | 5 | 11 |
| 合格者の転籍が高まる | 5 | 0 | 5 |
| 資格取得により仕事の幅が広がる | 1 | 0 | 1 |
| 肩書きができたので帰国ビジネスを興す | 1 | 0 | 1 |
| 他の外国人の励みになる | 1 | 0 | 1 |
| 変わらない | 0 | 1 | 1 |
| わからない | 2 | 1 | 3 |
| 合計 | 49 | 23 | 72 |

外国人の定着に効果的だとみる経営者が極めて多い。